

| | |
|----|--------|
| 全体 | No.35 |
| 個別 | 007-01 |

平成26年度 [農 林 水 産 部] 目標の成果

| | |
|-----|-----------------|
| 課 名 | 農 林 ・ し い た け 課 |
|-----|-----------------|

| No. | 項 目 | 對馬椎茸“やる倍”ナバダス計画総合対策支援事業 |
|-----|-----------------------|---|
| | 1. 組 織 目 標 | <p>【 内 容 】</p> <p>『對馬椎茸“やる倍”ナバダス計画』に基づき、計画的にしいたけ振興策を図ります。</p> <p>①生産者のやる気を倍増 価格の安定化(しいたけ安定価格買取)</p> <p>②生産量を倍増 作業の効率化(生産団地・省力化機械器具導入、種駒補助制度)</p> <p>③系統(全農市場)外出荷量を倍増 分業化・安定供給(量、品質、納期)に向けたルールづくり</p> <p>【 指 標 】</p> <p>○大型生産団地導入支援 1団地 ○品質向上基盤施設導入支援(乾燥機リース) 3台 ○しいたけ生産推進 種駒補助2,000万個 原木補助30万本 ○新需要創出支援 物産展20回 調理方法開発・発信1式 ○しいたけ生産者後継者 3名 選別作業員 7名 ○生産量 乾80トン 生80トン</p> |
| | 2. 実 績 (成 果) | <p>【 今 年 度 】</p> <p>○大型生産団地導入支援 1団地 ○品質向上基盤施設導入支援(乾燥機リース) 3台 ○しいたけ生産推進 種駒補助11,314,000個 原木補助281,344本 ○新需要創出支援 物産展40回 調理方法開発・発信1式 ○しいたけ生産者後継者 3名 選別作業員 8名 ○生産量 乾39.9トン 生110.8トン ○對馬しいたけ新規就農者施設整備支援 6名</p> |
| | 3. 評 価 | ○ |
| | | <p>全国的に凶作の中で生産量、生産額ともに前年を下回ったものの、原発事故によるセシウム風評被害も収束を迎えつつある。品薄感から市場取引価格も上昇してきている。国の緊急雇用創出事業臨時特例基金事業を活用した担い手・後継者対策にも一定の成果を得た。全農乾椎茸品評会では對馬市の生産者としては、28年ぶりに花どんこ個人部では農林水産大臣賞に輝きました。</p> |
| | 4. 今 後 の 展 開 | <p>第3次しいたけ振興計画「對馬椎茸“やる倍”ナバダス計画」では、生産体制の充実を図ることはもとより、流通体制まで大きく踏み込んだ計画を策定しました。安全安心なしいたけの新規販路開拓・消費拡大に向けて、関係機関一丸となって取り組みます。</p> |

| | |
|----|--------|
| 全体 | No.36 |
| 個別 | 007-02 |

平成26年度 [農 林 水 産 部] 目標の成果

| | |
|-----|-----------------|
| 課 名 | 農 林 ・ し い た け 課 |
|-----|-----------------|

| No. | 項 目 | 市有林整備の推進による循環型森林資源活用のためのオフセット・クレジット提案事業 |
|-----|---|---|
| | 1. 組 織 目 標 | |
| | <p>【 内 容 】</p> <p>国・県等の補助制度等の活用による間伐事業を現状の森林状況に沿った計画的な間伐を進めます。なお、J-VER制度については、平成24年度までにクレジット発行まで出来たことからクレジットの売買を加速させます。また、間伐材売払金及びクレジット売買収入金による基金を森林整備の財源として利用します。</p> <p>【 指 標 】</p> <p>【市有林整備】</p> <p>①森林整備面積：16ha（利用間伐）②路網整備：L=3,000m</p> <p>【 J - V E R 制 度 関 係 】</p> <p>①クレジット売買のための企業訪問やイベントへの参加（5回） ②クレジット販売：100t-CO2（収入金：800千円）③新規契約件数：3件</p> <p>【基金の活用】</p> <p>①ツシマヤマネコの森林づくり事業委託料（1,500千円） ②森林環境に配慮した森林整備補助金（2,500千円）</p> | |
| | 2. 実 績 (成 果) | |
| | <p>【市有林整備】</p> <p>①施業実施面積：利用間伐 面積（8.8ha） 材積（358.5m³） ②路網整備：1,324m</p> <p>【 J - V E R 制 度 関 係 】</p> <p>①クレジット売買の為の企業訪問及びイベント参加：8回 ②クレジット販売：8件 119t-CO2（収入金：1,319,400円） ③新規契約件数：5件 ●クレジット残量：1,256t-CO2</p> <p>【基金の活用】</p> <p>①ツシマヤマネコと共生する地域森林管理行動計画策定業務 1,490,400円 委託業者：(株)愛植物設計事務所 モデル地区（舟志地区） 説明会2回 ②対馬市環境配慮型森林整備補助金交付要綱制定（平成27年2月1日） 補助金申請 0件</p> | |
| | 3. 評 価 | △ |
| | <p>●間伐実施面積が8.8haと計画に満たず素材減産の結果、売り払い額が減収となりました。しかし素材の質がよく売り払い単価は、昨年度より2割高値となり、360万円を森・川・里・海環境保全再生基金に充当しました。</p> <p>●長崎がんばらんば国体・大会におけるカーボン・オフセットの実施など、大規模なイベントでのクレジット販売も行い、販売量も順調に増加している。</p> <p>●舟志地区をモデル地区として、ツシマヤマネコ等の生物との共生を目指した森林施業のあり方を検証していく事業を開始することが出来た。</p> | |
| | 4. 今 後 の 展 開 | |
| | <p>森林の有する諸機能を高度に発揮させるために、適正な森林施業を実施し、健全な森林資源の維持増進を図ります。また、J-VER関係においてはクレジット販売を強化するため、引き続き全国イベントへの参加や埼玉県制度への本格参画のため、埼玉県内の目標未達成事業所への売り込みを継続して行います。</p> | |

| | |
|----|--------|
| 全体 | No.37 |
| 個別 | 007-03 |

平成26年度 [農 林 水 産 部] 目標の成果

| | |
|-----|-----------------|
| 課 名 | 農 林 ・ し い た け 課 |
|-----|-----------------|

| No. | 項 目 | 対馬猪鹿活用促進事業 |
|-----|-----------------------|--|
| | 1. 組 織 目 標 | |
| | 【 内 容 】 | <p>対馬猪鹿活用促進事業で、防護柵の位置情報、捕獲情報等の有害鳥獣対策の現状把握をさらに進め、要請があった地区には直接出向き、地域住民に情報をフィードバックしたい。ただし対策の主体は地域であり、行政は対策をサポートするため蓄積された情報を根拠に効果的な体制づくりのサポートに徹したい。(行政依存体質の脱却)</p> <p>被害対策を推進するための防護柵の整備については、新規柵の整備、既存柵の機能向上、居住区域内安全対策、家庭菜園等防護柵と、事業メニューが多く市民の理解度が低い事から、期間を定めて「イノシシ・シカに関する対策相談」等を個別に開催し、農業振興と被害対策についての正確な情報提供に努める。</p> <p>また、農林業従事者、有害鳥獣捕獲従事者、行政担当等でワークショップを開催し、農林業振興と有害鳥獣問題を横断的、多面的に話し合い問題解決に向けた意見の集約を実施する。さらには有害鳥獣対策に多くの市民が関わるためのきっかけに皮革製品や食肉加工品等、利活用の普及啓発活動を行う。</p> |
| | 【 指 標 】 | <p>①地域主導の被害対策推進地区増加数：5地区</p> <p>②地区捕獲隊増加数：5地区</p> <p>③「イノシシ・シカに関する対策相談」開催：12箇所 ※対馬振興局農業振興普及課による農業指導も同時開催計画中。 ※各町2箇所ずつ島内12箇所で開催。</p> <p>④ワークショップ開催：年4回</p> <p>⑤有害鳥獣利活用及び人材・担い手（対馬の子供達）育成</p> <p>⑥各種防護対策の実施</p> |
| | 2. 実 績 (成 果) | <p>①地域主導の被害対策推進地区増加数：6地区 (居住区域内安全対策として防護柵を集落周辺に設置)</p> <p>②地区捕獲隊増加数：1地区(上県町女連地区)</p> <p>③「農業相談会及び防護柵要望受付」開催：13箇所 ※対馬振興局農業振興普及課による農業指導も同時開催。</p> <p>④ワークショップ開催：3回(対馬いとなみ協議会主催：1/17、2/1・21 約150名参加)</p> <p>⑤厳原中学校1年性対象に有害鳥獣対策の授業実施(合計10時間)</p> <p>⑥各種防護対策の実施(国交付金、市単独補助事業を活用)</p> <p>⑦資源活用推進(衛生的な解体・加工実施、皮革を活用した普及啓発活動実施)</p> |
| | 3. 評 価 | ○ |
| | | 目標はほぼ達成できましたが、今後継続した取り組みが必要と感じています。 |
| | 4. 今 後 の 展 開 | <p>今後は資源活用面を積極的に行い、肉や革が経済価値を生む事で、多くの市民を巻き込んだ有害鳥獣対策の推進と、新たな産業と雇用創出により、地域を護る事がお金になる仕組みを構築する事が望まれます。</p> <p>まずは、やる気ある地域を積極的にサポートし、地域住民に自信とやる気を持ってもらう必要があります。(小さな成功体験の積み重ね)</p> |

| | |
|----|--------|
| 全体 | No.38 |
| 個別 | 007-04 |

平成26年度 [農 林 水 産 部] 目標の成果

| | |
|-----|-----------------|
| 課 名 | 農 林 ・ し い た け 課 |
|-----|-----------------|

| No. | 項 目 | 学校給食地場農林水産物導入事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------------|---------------------|--|---------------------------|-----|-------|---------------------------|--------|-----|-------|-----|------|--------|-----|-----|-------|-----|-----|------|-----|-----|---|-----|-----|
| | 1. 組 織 目 標 | <p>【 内 容 】 各学校給食調理場が納入した、地場産品（対馬産）について、月毎に1/2（対馬生まれのあか牛の場合は3/4）の助成を実施します。</p> <p>【 指 標 】</p> <p style="text-align: center;">学校給食に地場産品を使用する割合</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>主要4品目（馬鈴薯、人参、玉葱、きゅうり）：重量比</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td>ミニトマト</td> <td style="text-align: right;">80%</td> </tr> <tr> <td>アスパラガス</td> <td style="text-align: right;">80%</td> </tr> <tr> <td>さつまいも</td> <td style="text-align: right;">80%</td> </tr> <tr> <td>しいたけ</td> <td style="text-align: right;">100%</td> </tr> <tr> <td>米</td> <td style="text-align: right;">50%</td> </tr> </table> | 主要4品目（馬鈴薯、人参、玉葱、きゅうり）：重量比 | 30% | ミニトマト | 80% | アスパラガス | 80% | さつまいも | 80% | しいたけ | 100% | 米 | 50% | | | | | | | | | |
| 主要4品目（馬鈴薯、人参、玉葱、きゅうり）：重量比 | 30% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ミニトマト | 80% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アスパラガス | 80% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| さつまいも | 80% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| しいたけ | 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 米 | 50% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2. 実 績（成果） | <p>特産・推奨品である椎茸・あか牛・野菜及び水産物購入への支援を行いました。</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">H26</th> <th style="text-align: center;">H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主要4品目（馬鈴薯、人参、玉葱、きゅうり）：重量比</td> <td style="text-align: center;">22%</td> <td style="text-align: center;">28%</td> </tr> <tr> <td>ミニトマト</td> <td style="text-align: center;">55%</td> <td style="text-align: center;">83%</td> </tr> <tr> <td>アスパラガス</td> <td style="text-align: center;">55%</td> <td style="text-align: center;">52%</td> </tr> <tr> <td>さつまいも</td> <td style="text-align: center;">45%</td> <td style="text-align: center;">48%</td> </tr> <tr> <td>しいたけ</td> <td style="text-align: center;">96%</td> <td style="text-align: center;">99%</td> </tr> <tr> <td>米</td> <td style="text-align: center;">36%</td> <td style="text-align: center;">42%</td> </tr> </tbody> </table> | | H26 | H25 | 主要4品目（馬鈴薯、人参、玉葱、きゅうり）：重量比 | 22% | 28% | ミニトマト | 55% | 83% | アスパラガス | 55% | 52% | さつまいも | 45% | 48% | しいたけ | 96% | 99% | 米 | 36% | 42% |
| | H26 | H25 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主要4品目（馬鈴薯、人参、玉葱、きゅうり）：重量比 | 22% | 28% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ミニトマト | 55% | 83% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アスパラガス | 55% | 52% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| さつまいも | 45% | 48% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| しいたけ | 96% | 99% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 米 | 36% | 42% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3. 評 価 | △ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | <p>対前年比において、アスパラガスはやや使用割合が上がったものの、その他全体的に使用割合が低下した。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4. 今 後 の 展 開 | <p>受給システムの構築及び地産地消の推進を図り、目標達成に向け、取り組みます。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|----|--------|
| 全体 | No.39 |
| 個別 | 007-05 |

平成26年度 [農 林 水 産 部] 目標の成果

| | |
|-----|-------|
| 課 名 | 水 産 課 |
|-----|-------|

| No. | 項 目 | 「海洋保護区の設定」 |
|-----|-----------------------|--|
| | 1. 組 織 目 標 | |
| | | <p>【 内 容 】</p> <p>・水産資源の持続的利用と伝統的な漁業の継承を図るために「海洋保護区」の設定を目指します。設定推進協議会は、科学的根拠に基づく科学委員会の答申を検討し、区域の設定や区域内の資源管理計画を策定し、対馬版海洋保護区設定案を作成し、戦略会議により国や県などに働きかけて対馬らしい海洋保護区の設定を目指します。</p> <p>【 指 標 】</p> <p>①設定推進協議会・専門委員会・戦略会議・科学委員会の組織の見直しをします。 ②管理計画作成委員会・魚種漁法別分科会を設置します。 ③設定推進協議会2回、管理計画作成委員会1回、魚種漁法別分科会2回開催予定です。 ④CATVを活用した対馬市海洋保護区PR番組の制作と放送をします。 ⑤海洋保護区設定に関連する国内法、国際法の整理を行います。</p> |
| | 2. 実 績 (成 果) | |
| | | <p>①協議会の中に新たに資源管理計画作成委員会を設けることを決定しました。 ②魚種漁法毎に7部会を設置する事を協議会で了承を得ました。 ③設定推進協議会を2回開催しましたが、管理計画作成委員会、魚種漁法別分科会は開催に至りませんでした。 ④CATVを活用した海洋保護区PR番組を3本制作し放送しました。 ⑤関連する国内法、国際法を抽出いたしました。</p> |
| | 3. 評 価 | △ |
| | | <p>資源管理計画作成委員会及び魚種・漁法毎の7つの部会を設けることを決定しましたが、年度内に資源管理計画に関する本格的な議論を始めることはできませんでした。普及啓発のために、CATVを活用した番組制作放送の他、科学委員会報告書概要版、海洋保護区リーフレットの原稿を作成いたしました。</p> |
| | 4. 今 後 の 展 開 | |
| | | <p>7部会での情報収集や意見交換を通して資源管理計画作成、海洋保護区設定を目指します。またCATV番組の制作、科学委員会報告書概要版やリーフレットの配布等を行い海洋保護区設定の必要性についてPRします。</p> |

| | |
|----|--------|
| 全体 | No.40 |
| 個別 | 007-06 |

平成26年度 [農 林 水 産 部] 目標の成果

| | |
|-----|-------|
| 課 名 | 水 産 課 |
|-----|-------|

| No. | 項 目 | 「対馬食通祭の開催」 |
|-----|-----------------------|---|
| | 1. 組 織 目 標 | <p>【 内 容 】</p> <p>・地産地消の拡大及び対馬産の需要度を高めるために対馬市産物消費拡大推進事業（対馬食通祭）を展開します。</p> <p>【 指 標 】</p> <p>○3ヶ月間のイベントを実施。期間中はオープニング、中間、エンディング、期間中の4つのイベントを開催します。</p> |
| | 2. 実 績 (成 果) | <p>1 島内でのイベント</p> <p>① オープニングイベント 11月23日(日) 会場：厳原 参加のべ人数900人</p> <p>② 中間イベント 12月14日(日) 会場：上対馬 参加のべ人数200人</p> <p>③ 中間イベント 12月20日(土) 会場：厳原 参加のべ人数300人</p> <p>④ エンディングイベント 1月25日(日) 会場：美津島 参加のべ人数750人</p> <p>⑤ 期間中のイベント 11月9日(日)から1月25日(日) 参加のべ人数9,435人 期間中、島内47店舗で対馬の食材を使用した料理を食べた方(1,000円以上)にビンゴカードを配布。配布枚数9,435枚(ビンゴ大会を②～④のイベント時に併せて開催)</p> <p>2 島外でのイベント</p> <p>① RKBラジオまつり 10月18日～19日 会場：福岡市 参加のべ人数650人</p> <p>② よりあい処つしまでのイベント 11月22日 会場：福岡市 参加のべ人数100人</p> <p>③ NTT西日本対馬食材フェア 11月28日 会場：福岡市 参加のべ人数150人</p> |
| | 3. 評 価 | ○ |
| | | <p>延べ1万2千人の方に対馬の農水産物の魅力を広めることができ、消費拡大の促進と対馬産地名度の向上へと起因する事業を行うことができました。また、初年度事業の目的である提供する側と食べる側の双方ともに、改めて対馬産に対する認識を深めることができ、「メイドイン対馬」の情報発信を効果的に行えました。</p> |
| | 4. 今 後 の 展 開 | <p>対馬食通祭のイベントを通じ、生産者と提供する店舗が島内全の一つの行事として対馬の産物を一体となって売り込み、その姿、姿勢を島外にPRすることで、島の魅力を発信します。</p> <p>また、島内店舗の協力体制の強化及び旬な食材が島内店舗のどこでも食べることが出来る島内流通の確立など、地産地消を行う上で必要不可欠となる体制を整えるため、引き続き対馬食通祭を実施し、対馬産の浸透を図っていきます。</p> |

| | |
|----|--------|
| 全体 | No.4 1 |
| 個別 | 007-07 |

平成26年度 [農 林 水 産 部] 目標の成果

| | |
|-----|-------|
| 課 名 | 水 産 課 |
|-----|-------|

| No. | 項 目 | 「漁礁設置」 |
|-----|-----------------------|---|
| | 1. 組 織 目 標 | |
| | | <p>【 内 容 】</p> <p>・魚礁を地先漁業権内に設置し、漁業生産量の確保を図ります。近場の漁場を整備することにより漁業者の高齢化にも配慮した環境を整えることができます。</p> <p>【 指 標 】</p> <p>○魚礁13,500空^m（琴・芦見・田ノ浜・小綱1・2：7,500空^m 水崎1・2・阿連・高浜：6,000空^m）</p> |
| | 2. 実 績 (成 果) | |
| | | <p>○上対馬1工区（豊地先）203空^m ○佐須奈1工区（佐護地先）982空^m ○佐須奈2工区（佐護地先）316空^m ○上対馬東1工区（五根緒）1,561空^m ○上対馬東2工区（小鹿）1,570空^m ○田ノ浜工区（志多留）1,580空^m ○小綱1工区（小綱地先1,112空^m【製作のみ】）</p> |
| | 3. 評 価 | △ |
| | | <p>・平成25年度繰越事業分は実施しましたが、平成26年度事業については測量試験を実施できたのみでした。平成27年度は平成26年度繰越分を含め実施へと繋げていきます。</p> |
| | 4. 今 後 の 展 開 | |
| | | <p>平成27年度は、平成26年度繰越事業分と平成27年度事業分を完了できるように取り組みます。</p> |

| | |
|----|--------|
| 全体 | No.42 |
| 個別 | 007-08 |

平成26年度 [農 林 水 産 部] 目標の成果

| | |
|-----|-------|
| 課 名 | 水 産 課 |
|-----|-------|

| No. | 項 目 | 「水産物の輸送費補助」 |
|-----|----------------|---|
| | 1. 組 織 目 標 | <p>【 内 容 】</p> <p>・水産物を島外へ出荷する際の輸送コストに係る経費を財政的に支援することで、漁業者の所得安定及び減少に歯止めをかけ、漁業の発展へ繋がります。</p> <p>【 指 標 】</p> <p>○181万5千箱分に対して支援を行います。</p> |
| | 2. 実 績 (成 果) | <p>○150万箱に対しての支援を実施しました。</p> |
| | 3. 評 価 | <p>△</p> <p>・水揚量の関係で目標181万5千箱分に対して150万箱分しか輸送できず、約7%分の減少となりましたが、漁業者の負担軽減に努めました。</p> |
| | 4. 今 後 の 展 開 | <p>平成27年度は、平成26年度分以上の実績を見込んでいます。</p> |

| | |
|----|--------|
| 全体 | No.43 |
| 個別 | 007-09 |

平成26年度 [農 林 水 産 部] 目標の成果

| | |
|-----|-----------|
| 課 名 | 基 盤 整 備 課 |
|-----|-----------|

| No. | 項 目 | 基盤整備工事の早期発注、早期完成 |
|-----|-------------|--|
| 1. | 組 織 目 標 | <p>【 内 容 】 公共工事の早期発注、早期完成を図るため、12月末まで設計を完了します。</p> <p>【 指 標 】 平成26年末完了予定額 100%目標 (1,572百万円) 平成26年末完了予定件数 委託 14件 工事 22件</p> |
| 2. | 実 績 (成 果) | <p>平成26年末(12月)完了額 実績額 1,614百万円中、807百万円 50.0% 平成26年末(12月)完了件数 実績件数 工事 41件中、27件 委託 19件中、5件</p> <p>漁港事業においては、新規着手工種が多数発生したことにより、設計業務及び協議に日数を要し進捗が大幅に遅れました。また、平成25年度末の国の補正予算により委託及び工事発注件数が増となり、3漁港において発注が遅れました。</p> <p>林道事業については、効率的な発注により目標を達成することができ、平成26年度末には、工事の進捗を図るため国の補正予算獲得に向けての取組を行いました。</p> <p>平成25年度 国の補正による額(漁港) 190百万円 平成26年度 国の補正による額(林道) 48百万円</p> |
| 3. | 評 価 | △ |
| | | <p>早期着工については、国の早着認可制度等を利用して行ったが、新規着手工種の許認可事務及び、測量、調査、設計等の委託業務や地元協議に時間を要した事により、本工事着手が遅れ目標100%達成が出来ませんでした。</p> |
| 4. | 今 後 の 展 開 | <p>未着手分の早期着工及び新規工種の断面決定を行い、計画的に各種事務処理手続きを完了させ、工事の早期完成を目指します。</p> <p>また、地元要望に迅速に対応するため、関係者と連携を取りながら適切かつ有効な事業計画の立案に努めます。</p> |